

# Akatake Times

Vol. 12  
(通算 第165号)

あっという間に桜が散り、五月晴れの空と新緑の街路樹。  
街歩きが楽しい季節になりました。  
ゴールデンウィークでリフレッシュできましたか？  
また元気に仕事がんばっていきましょう！



『紫陽花』

気の滅入りがちな梅雨の時期が近づいてきましたが、それは同時に、アジサイが目を楽しませてくれる時期とも言えます。  
アジサイの語源は、「藍色が集まったもの」を意味する「あづさい(集真藍)」がなまったものとする説が有力なのとか。  
そうかと思えば、花の色が良く変わることから「七変化」や「八仙花」との別名もあるようです。  
花の色は土壌のpHによって変わり、一般的に「酸性ならば青、アルカリ性ならば赤」と言われています。  
私たちがアジサイならば、自分がこれまで耕してきた土壌の上にどんな色の花を咲かせますか？

撮影日時：2009年6月13日

撮影場所：大鐘家(牧之原市)



ゆらゆらと春が来て過ごしやすい季節となりました。タンポポが咲き、あぜ道には名も知らない小さな可憐な花が目にとまります。この時期の小さな命は、格別の感動を私どもに与えてくれます。今期も余すところ4ヶ月です。外へ出て自然の恵みに感謝して英気を養うことも大事な事かと思ひます。

●余りの衝撃に驚くばかりで言葉がありません。4月14日に発生した熊本地震の余震。4月16日には本震が発生し、以来余震が多く続き復旧もままならない事態。現地の不安はいかばかりかと察する次第です。亡くなられた方々、被災された方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。私どもは当地にいて可能な限り支援をしていかなければならないと決意しています。天災に対しては、我々は、まったく無力であり、なす術もなく自然に任せるばかりです。三つ目の坂といわれる“まさか”今日地震がくるとは・・・！！明日はわが身、防災対策はしっかり見直しておかなければなりません。毎日、種々多くの現地情報がマスコミから入ってきます。注目すべき一つに、被災された方々とマスコミの取材側とのトラブルがあります。絶望の淵におかれた我が身を容赦なくカメラのシャッターが襲い、いまだのような思いですかの質問が飛び交う中で被災者の怒号が『帰れ！』と。全てではないでしょうが、あまりにも理不尽なマスコミの倫理姿勢が問われる場面も多いようです。特ダネ的なニュースを得たい気持ちと 帰れ！は、まさに経済と徳のバランスが崩れているように思えてなりません。同じような事例として・・・またぞろ、某自動車メーカーがデータを改ざんし燃費が良いとして市場に出していたことが判明、会社が倒産するのではないかと危惧されるほどの失態です。従業員とその家族、下請関連会社は寝耳に水で、不安は募るばかりでしょう。数名の判断で数万人の生活が脅かされるなどあつてはならないこと。真面目にコツコツ、愚直がいいですね。

●最近、話題になっている南米の小国ウルグアイのムヒカ元大統領のことですが、皆さんは良く知っているかと思いますが敢えて触れておきたいと思ひます。過日(3月か)来日した彼が、たしか大学のようなところで若者を前に講演していた様子を偶然テレビで見ました。講演の終わりの方でしたので全容は分かりませんが、若者の質問に答えていたムヒカ氏の話がとても感動的でした。家内にそのことを話したら、「我が家にムヒカさんが講演した話をまとめた本がある」とのこと。それによると、2012年、ブラジルのリオデジャネイロで国際会議が開かれました。環境が悪化した地球の未来について話し合うためでした。そのときムヒカ氏が講演しました。壇上に立ったムヒカ大統領。質素なスーツにネクタイなしのシャツ姿です。彼は世界で一番貧しい大統領なのです。給料の大半を貧しい人のために寄付し、大統領の公邸に住まず町から離れた農場で奥さんと二人で暮らしています。運転手つきの立派な車に乗る代わりに古びた愛車を自分で運転して仕事に向かいます。身なりをかまうことなく働くムヒカ大統領を、ウルグアイの人々は親しみを込めて「ペペ」と呼んでいます。会議もこれといった名案も出ない中、ムヒカ大統領の講演が始まりました。会場の人たちは、小国の話にそれほど関心を持っていませんでした。しかし、演説が終わったとき、大きな拍手が起こりました。



『私達は、豊かになって、欲しいものが手に入る、裕福な生活を望んでいるのではないのでしょうか。』

『今の文明は、私達が作ったものです。おどろくほど発展しました。私達は、できるだけ安いものを作って、できるだけ高く売るためにどの国のどの人々を利用したらいいだろうかと、世界を眺めるようになった。』

『目の前にある危機は地球環境の危機ではなく、私達の生き方の危機です。私達は発展するためにこの世に生まれてきたのではありません。この惑星に幸せになろうと思って生まれてきたのです。』

『古代の賢人エピクロスやセネカ、そしてアイマラ民族は次のように言いました。貧乏とは、少ししか持っていないことではない。限りなく多くを必要とし、もっともっとと欲しがることである。この言葉は、人間にとって何が大切かを教えている。』

『知らなくてはならない、地球環境の危機の本当の原因は、私達が目指してきた幸せの中身にあるのです。見直さなくてはいけないのは、私達自身の生き方なのです。』

『社会が発展することが幸せを損なうものであってはなりません。発展とは、幸せの味方でなくてはならない。人と人が幸せな関係を結ぶこと、子供を育てること、友人を持つこと、地球上に愛があること—こうしたものは人間が生きるためにぎりぎり必要な土台です。発展はこれらをつくることの味方でなくてはならない。』

以上、かいつまんで紹介しました。この本は「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」というタイトルで、Amazonランキング大賞 2015年上半期 児童書部門の第一位だそうです。

●沼津市内にある真楽寺の勸山弘老師が書き続けている“読むテレフォン説法”の4月号に心を射抜く文面がありました。

『仏教には不殺生戒(ふせつしょうかい)がある。藤井日達聖人は叫んだ。文明とは電気のつくことではない。飛行機のあることでもない。原子爆弾を製造することでもない。文明とは、人を殺さないことである』  
(藤井日達聖人：1885年8月～1985年1月、熊本県阿蘇出身の僧侶)

ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀



—column—



改善のレベル3段階は、「ない化→にく化→ても化」である・・・なんのこっちゃ？

改善をするにあたり、当然「効果の高い改善」が良いに決まっていますが、現実的にそれができる状況というのは限られます。(費用や時間、労力等の点から)  
それなのに、漠然とした「効果の高い改善」を常に狙っているのは、企業も社員も疲れ果ててしまいます。こんな時に採用する考え方が、冒頭の「ない化→にく化→ても化」です。

具体的な例で説明していきましょう。

例えば、ハシゴを昇った先にある高所の圧力計の指示値を確認する作業があるとしたら、ハシゴの昇降作業には常に落下の危険が付きまといますので、これを改善したいと考えます。

第1段階は**落ち「ない化」**です。  
昇るから落ちるのであって、昇らなければいい。鏡などを設置して地上から圧力指示値が確認できるようにしたり、パイパスして地上側に圧力計を設ければ、落ちる心配はありません。

第2段階は**落ち「にく化」**です。  
昇らなくするのはできないとしたら、落下しにくいようにハシゴに滑り止めを付けたり、背かごを設けたりして、落下の可能性を減らしてやればいいということです。

第3段階は**落ち「ても化」**です。  
上記2つが適用できない場合、あるいはより安全性を高めるために、安全帯を使用したり、地上にクッションを敷いたりすることで、万一落下しても被害を最小限に食い止めるようにすることです。

製品の設計や工場・事務所のレイアウト変更、不適合の再発防止対策や、安全面での予防処置、また改善提案など、様々なシチュエーションでこの考え方は適用できると思います。

「費用対効果」を常に最大化するのではなく、3段階にレベル分けし、時と場合に応じて選択していきましょう。

